

『ここまでのがユートピア』

(2014年版)

作・鹿目由紀

登場人物

松島 潤 (まつしま じゅん) ……新規ユートピア建国者
三宅 行人 (みやけ ゆきひと) ……新規ユートピア建国者

日向 落子 (ひなた ふきこ) ……ユートピア建国者
岩城 浩二 (いわき こうじ) ……ユートピア建国者
伊吹 直子 (いぶき なおこ) ……ユートピア建国者
倉橋 環 (くらはし たまき) ……ユートピア建国者
永浦 哲夫 (ながうら てつお) ……ユートピア建国者
野崎 泉 (のざき いずみ) ……ユートピア建国者
大神 薫 (おおがみ かおる) ……ユートピア建国者
沖野 新一 (おきの しんいち) ……ユートピア建国者

横山 朋子 (よこやま ともこ) ……ユートピア建国島 管理官
小川 佳穂 (おがわ かほ) ……ユートピア建国島 管理官補佐
天草 三郎 (あまくさ さぶろう) ……ユートピア建国島 見回り
宮戸 宗介 (みやと そうすけ) ……ユートピア建国島 見回り
久米 直樹 (くめ なおき) ……ユートピア建国島 イタリアンシェフ

岬の女 (倉橋と同じ人が演じるのが望ましい)

女たち (掛け持ちで演じるのが望ましい)

女1
女2
女3
女4
女5
女6
男1 (他2〜3名)

波の音。

『島』のような、楕円形のきちんと区切られた空間。

その円の周りには、大量の砂。

円に沿って、砂色をした大小様々な箱が置かれている。

この箱は、これから場所という場所を特定するのに必要な物だ。

『島』のど真ん中で、松島潤と三宅行人が並んで体操座り。

その両側に小川佳穂と天草三郎が立っている。

船。

三宅　もうすぐですか。

小川　後10分ですね。

三宅　どうやって来たのかまったく憶えてないなあ。

小川　特殊な水路を使用していますから。

三宅　特殊な。

小川　航路標識が出ている時でない限り、分からないルートです。

三宅　嚴重なんですね。

小川　国の政策ですからね。

三宅　松島さん。

松島　…。

三宅　松島さん。

松島　…呼びました？

三宅　船酔いですか。

松島　いえ、綺麗だなあと思って。海。

三宅　天気いいですからね、今日は。

松島　そうですね。

三宅　考え付きました？

松島　なにをですか。

三宅　ユートピアルールですよ。

松島　いえ…まだです。

三宅　着くまでに決めるって言ってたじゃないですか。

松島　決めようとは思ってるんですよ。けど決めようとするとなんか風景が目

飛び込んできて、なかなか考えさせてくれないっていうか。

三宅　僕も絞らなきゃなんないからなあ。

松島　100は多いでしょう。

三宅　でも100個でしょ。なかなか絞れないですよ。

小川　いいんですよ。ギリギリまで考えて頂いて。

三宅 皆さん迷いました？

小川 かなり。

三宅 やっぱり迷いますよね。

松島 僕なんか、迷うネタすらまだ浮かんでないですからね。

三宅 考えてあげようか。

松島 いいですいいです。自分で考えます。

三宅 ……なんかドキドキしてきた。

松島 ドキドキですか。

三宅 だってまさか選ばれると思わなかったでしょ！

松島 裁判員に選ばれた友達がまったく同じ事言っていました。

三宅 裁判員より凄いですよ、これは。

松島 ですかね。

三宅 結構やってみたっていう人多いよ、僕のまわり。

松島 へえ。

三宅 僕なんか年齢制限ギリギリだからさ、ああ、もう無理かなあと諦めてたら

松島 通知が来たからめっちゃくちや嬉しかったよ。

松島 おいくつなんですか。

三宅 35です。

松島 じゃホントギリですね。

三宅 ギリもギリ。松島さんは。

松島 25です。

三宅 10も違うんだ。

松島 よく歳の割にジジクサイって言われますけどね。

三宅 くん付けだな、松島くん。

松島 どうぞどうぞ。

三宅 お互いユートピアつくっても仲良くしようね。

松島 はい。

天草 (トランシーバーで)こちら天草です。あと6分ほどで港に到着します。

小川 ほら、見えて来ましたよ。

松島 あれか。

三宅 写真撮ったよ。

携帯電話を取り出す、三宅。

小川 申し訳ありませんが、島の撮影は禁じられておりました。

三宅 そりゃそうだよね。すみません。

松島 思ったよりちっちゃいなあ。

小川 面積としては沖繩の波照間島とほぼ同じくらいです。

松島 なるほど。

三宅 とか言って、分かってないでしょ。

松島 分かってませんね。

三宅 これだから20代はなあ。

三宅、松島の肩を叩く。

三宅 あ。

松島 どうしました。

三宅 こうやって気安く触れるのも、今のうちだね。

松島 …あ、そうか。

三宅 よろしく。

手を差し出す三宅。

松島 よろしくお願いします。

三宅の手を握る、松島。

高くなる、波の音。

その音につられて、波のように『島』の周りを歩いていく人々。

近づいてくる島を見つめる、2人。

島での生活を想像しながら…。

小川 到着です。

気付けば、港。

天草 タラップ降下。

しばらく、間。

天草 降下完了しました。

小川 降りましょう。

小川の後について、船を降りる松島と三宅。
横山朋子管理官と宮戸宗介の前に着く。

横山 松島潤さん、三宅行人さん、お待ちしておりました。ユートピア建国島の管理官を務めております、横山と申します。

宮戸 島の見回りをしています、宮戸です。

三宅 よろしくお願いします。

松島 よろしくお願いします。

宮戸 どうぞこちらへ。

三宅 はい。

横山たちに付いていく2人。

管理事務所の応接室。

三宅と松島、横山が向かい合わせに腰かけている。

小川、宮戸、天草が横山の後ろに立っている。

横山 事前にご自宅に郵送した資料には、目を通して頂けましたか。

三宅 はい。

松島 一応。

横山 ありがとうございます。では改めまして、私の方から簡潔に説明致します。

ユートピア政策は、『1人が1つの国になろう』をスローガンに、新政府のマニフェストとして実施する目玉政策です。不況の現代、国民の労働意欲の減退は明らかであり、自分がなにをしたいのか、なにに興味を持っているのかを明確に見出せなくなっている若者は、増加の一途を辿っています。これは高齢者の数の増加とあいまって、我が国に深刻な経済状況をつくる要因の一つとなっている事は明白であります。このような問題を解消すべく、今回のユートピア政策が実現する事となりました。とはいえ現在行われているのは、そのプロトタイプであります。つまり皆様には、本格始動する前の貴重なモデルとなって頂くわけです。このような実験段階で、普段、営まれている社会生活を中断してまで、ここにいらしてくださいました事、政府を代表致しまして、厚く御礼申し上げます。

深く頭を下げる、管理側の4人。

頭を下げる三宅と松島。

横山

早速ですが、携帯電話等の通信機器はお持ちでしょうか。

三宅 はい。

横山 まずは、それらを回収させていただきます。

松島 回収ですか。

小川 ご心配なく。一日に一度は外部と通信する時間がございます。

携帯電話をテーブルの上に置く2人。

小川 失礼致します。

回収して去る小川。

横山 さて、お2人はこの度、厳正なる抽選の結果、ユートピア建国者に選ばれました。

横山 本日よりこの島で、それぞれのユートピアを建国して頂きます。

横山 それにあたり、ご自分の国のルール、つまりユートピアルールを10カ条、

横山 決定して頂きます。ユートピアルールについては、お送りした資料でご理解

横山 頂いているでしょうか。

三宅 はい。

松島 …ちよつと自信ないです。

横山 ユートピアルールは規律です。このルールはご自分がご自分の国を良くす

横山 るために必要と感じられるルールでなければなりません。ご存知だと思

横山 いますが、このユートピア建国島には、普通の生活には困らないだけの居住

横山 施設、物資、人員が揃っております。

小川 島の物資設備については、こちらのパンフレットをお配りします。

パンフレットを提示する小川。

三宅 資料に同封されていた物ですよ。僕持ってます。(取り出す)

松島 一応、貰っというていいですか。

小川 どうぞ。

パンフレットを渡す小川。

横山 そこに記されているように、十分に満たされているこの島で、お一人お一人、

横山 ご自分の思い描くユートピア、つまり理想の国をつくって頂き、決め

横山 たルールを守りながら1人でユートピア生活を持続していく中で、ご自分

横山 のアイデンティティーを再認識し、半年後、国を背負う次世代の若者とし

て、広い視野、独自の意見を持ち、社会生活に戻って頂くのがこの政策の目的なのです。

三宅 緊張しますね。

松島 すぎえ！（立ち上がる）

全員、松島を見る。

松島 レストラン、こんなにあるんですか！？

横山 島内7ヶ所に和食、フレンチ、イタリアン、中華のシェフが常駐していま

す。それ以外のジャンルをご所望でしたら、その都度呼びつける事も可能です。

松島 凄いですね。

三宅 しかし、シェフと接触する事は出来ないんですね。

横山 はい。顔を合わせる事も許可されていません。作られた料理は所定のカウ

ンターより提供され、ユートピア建国者はそこからご自分の手で料理を持つていく形になります。

三宅 社員食堂みたいなもんだな。

松島 つまり、どんな人だとしてもテリトリーに入れちゃダメって事ですか！

横山 もちろんです。

松島 …（パンフを見る）調理場もあるんですね。

横山 居住施設に設置されているキッチン以外に大きな調理施設が8ヶ所ございます。食材も毎朝、新鮮な野菜、肉、魚、穀類などを取り揃えてあります。

松島 知ってました？

三宅 これ読んでたからね。

横山 では、ユートピアの守備についての説明を致しましょう。

頭に鉢巻のようなバンドを巻いた宮戸と天草がホワイトボードを運んでくる。

そこには2人の人間とその人間の周りに円が描かれている。

小川がボードの必要な箇所を指していく。

横山 ここにあるように、皆さんが所有するユートピアのテリトリーは半径75センチメートルになります。

松島 …75センチですか。

横山 はい。これはお互いが手を伸ばしても当たらない程度の距離です。

宮戸と天草、手を広げて実践する。

三宅 …道歩いてて、すれ違いそうになったらどうすればいいんですか。

横山 もちろん、きちんとよけてください。

三宅 難しそうだなあ。

横山 慣れれば大丈夫だと思います。開始して1ヶ月経ちますが、皆さんだいぶ距離を取る事に慣れてらっしゃいますよ。

松島 へえ。

横山 もし万が一、相手のユートピアに踏み込んでしまった場合は、トピアノ方式を取ります。

三宅 トピアノ方式？

宮戸が天草のテリトリーに踏み込む。

ユートピア侵入の警告音が鳴る。

宮戸 トピアノトピアノトピアノトピアノ…(続ける)

横山 と、息継ぎをせずに「トピアノ」と連呼できれば、相手のユートピアに入っても大丈夫です。ただし少しでも息継ぎをしてしまったら、

再び、宮戸が天草のテリトリーに踏み込む。

ユートピア侵入の警告音。

宮戸 トピアノトピアノ(息を吸う)トピアノ、あ。

横山 相手の国に吸収合併され、そのユートピアルールに従いながら生きていかなければなりません。しかし、もしもここで息継ぎをせずに相手の頭のバンドを取ることが出来れば、相手側が自分の国のユートピアに吸収合併されます。

松島 陣取り合戦みたいですね。

横山 …だいたい話しましたが、ご質問はございますか。

三宅 大変聞きにくいんですが…ここには簡単にしか書いてなかったもので…。

横山 どうぞ。

三宅 性欲はどう処理しましょう。

横山 ご安心ください。限りなく異性に近いバーチャルシステムがございまして、充分な対応ができるかと思えます。

三宅 充分な対応。

横山 他には。

松島 あ、この『集会』ってというのはなんですか。

横山 毎日午前11時、経過を確認するために、1時間ほどユートピア広場に集まって頂きます。
なるほど。

横山 他にはよろしいですか。

三宅 はい。

松島 よろしいです。

横山 それではお2人のユートピアルールを決定して頂きます。

三宅 ……どれにしよう。

松島 横山さん。僕、ユートピアルールが全然決まらなくて…。

横山 そういう方は多かったですよ。よろしければ、今からちようど集会ですので、そこで他の建国者と接触してみてもはどうでしょうか。

松島 あ、助かります！

横山 しかし1時間後には決定して頂きます。

松島 分かりました。

横山 宮戸。

宮戸 ご案内します。

松島 三宅さんはどうしますか。

三宅 行く。

横山 それでは50分後に、ここにお戻りください。いいね。

宮戸 はい。では行きましょうか。

松島・三宅 はい。

松島と三宅、宮戸の後ろについて行く。

松島 大変ですか、この仕事。

宮戸 楽しいですよ。

松島 楽しいですか。

宮戸 新しい政策の一端を担えるのは、光栄な事です。

松島 凄いなあ…若いのに。

宮戸 松島さんだって若いじゃないですか。

松島 僕はなにも考えてないですから。

三宅 その、なにも考えてない若者のための政策だからね、これは。

松島 じゃ僕びったりだ。

三宅 そうかもね。だって松島くん、全然資料読んでないんだもん。

松島 資料は見ましたよ。見たんですけど漢字ばかり見てたら頭痛くなっちゃ

って。

ダメだなあ。

三宅
松島
三宅
ま、実際に経験してみた方が理解が早いっていうか。ね。
ダメだなあ。

反対側から、体中に草を巻きつけた岩城浩二が走ってくる。
宮戸たちを見つけると、少し離れた所で立ち止まる。

岩城
お疲れ様です。

宮戸
お疲れ様です。

岩城
そちらは、新しい建国者の方々ですか。

宮戸
はい。

三宅
三宅です。

松島
松島です。

岩城
コウジトピア国王の岩城浩二です。

三宅
…国の名前ですか。

宮戸
国の名前には、トピアを付けるという決まりがございます。

三宅
そんな事書いてあったな。

岩城
すみません、急ぎますんで、また後で。

岩城、走り去る。

宮戸、資料を見ながら歩き出す。

宮戸
岩城さんは…参拝の時間ですね。

松島
サンパイって、祈る？

宮戸
はい、コウジトピアには『午前10時50分にコージ―神社に参拝する』
というルールがあります。

松島
なんで身体に草を巻いてるんですか。

宮戸
コウジトピアは自然を愛する国で、あれが国王のフォーマルウェアだそうです。

松島
なるほど。

足を止める宮戸。

いつの間にか、ユートピア広場。

宮戸

ここがユートピア広場です。

三宅 島のちょうど中央ですね。
宮戸 もうぐ午前11時ですので、皆さんいらっしゃるでしょう。
松島 国王は全部で何人いるんですか。
宮戸 10名、10国です。
三宅 僕らを含めて。
宮戸 そうなりますね。
三宅 ですよね、僕ら補充されてるわけですからね。
松島 じゃ2人抜けたんですか。
三宅 君はホントに資料を読んでないねえ。
松島 読んでないっすねえ。
宮戸 ご家庭の事情で、建国して15日目に。

鍋つかみで大きな鍋を持った日向落子がやってくる。

日向 (松島たちに気付く) おお、びっくりした。

伊吹直子がお玉を持って走ってくる。

伊吹 これ忘れてるよ！
日向 あ、ごめんなさい。

伊吹、お玉を地面に置いて後ろに離れる。
日向、地面に置いたお玉を拾い上げて離れる。

日向 ありがとう。
伊吹 洗ってね、それ。
日向 うん。こんにちは。
松島・三宅 こんにちは。
日向 ヒナヒナトピアの日向落子です。
松島 松島です。
三宅 三宅です。

去ろうとする伊吹。

宮戸 伊吹さん。
伊吹 …。

伊吹、会釈して去る。

宮戸
ブキト。ピア国王の伊吹直子さんです。

日向
伊吹国王は、男性とは口をきかないルールなんです。
松島
そうなんですか。

日向
新しい建国者の方々ですね。よろしく願います。
松島
よろしくお願い…

宮戸、近づこうとした松島の身体を引っ張る。

松島
あ、そっか。

日向
(笑う) 失礼します。

日向、去る。

三宅
松島くん、すぐに乗っ取られそうだな。
松島
ホントですね。

走って戻ってくる岩城。

岩城
あ！さっきはすみません。ちゃんと挨拶も出来なくて。
三宅
いえいえ。

倉橋環、永浦哲夫、大神薫がそれぞれ別の方向から現れる。

松島
おはようございます。

倉橋
おはようございます。

野崎泉がだらだら歩きながら来る。

岩城
おはようございます。
野崎
うっせえんだよジジイ！
三宅
…怒鳴られましたよ。
宮戸
あれもルールですから。

日向、伊吹も戻ってくる。

皆、お互いに一定の距離を取っている。

午前11時を示す鐘が鳴る。

宮戸 皆さん、今日から新しく建国される松島さんと三宅さんです。

松島 松島潤です。よろしくお願ひします。

三宅 三宅行人です。よろしくお願ひします。

数名、挨拶する。

宮戸 それでは集会を始めます。

皆それぞれ、他の人にはおかまいなしで、好きなようにいる。

その様子を観察しながら、ノートにメモする宮戸。

しばらく、間。

松島 …集会ってなにかするわけじゃないんですか。

宮戸 はい。ただ、いるだけです。

松島 そうなんですか。

三宅 1人足りませんよね。

間。

宮戸 ちょっと失礼。(トランシーバーに)こちら宮戸です。

と言いながら、その場を離れる宮戸。

建国者たちは、好き勝手に自分のやりたいことをやっている。

松島 …あの、すみません。

岩城 はい。

松島 岩城さんのユートピアルールを教えてくださいませんか。

岩城 もちろんいいですよ。これどうぞ。

岩城、カードのような物を地面に置いて離れる。

距離をはかりながら、おそろおそろ近づく松島と三宅。

カードを拾い上げて読み上げる、松島。

松島

「朝5時から畑仕事をする」「午前10時50分に参拝する」「毎日絶対に自炊する」「仕事は午後2時までしかやらない」「それ以降は自由時間」「日が沈む前に3キロ走る」「お風呂は3日に1回」「一日最低5人には挨拶する」「午後9時就寝」「朝晩寝る時と食事の時は祈りをかかさない」。

岩城

お役に立ちましたか？

三宅

はい、ありがとうございました。

カードを地面に置いて離れる松島と三宅。

カードを拾って距離を取る岩城。

岩城

困った事があれば遠慮なく言ってくださいね。僕に出来る事なら力になりますから。

松島・三宅

ありがとうございます。

日向を見る松島と三宅。

松島

日向さん。よろしければ…

日向

ルールですね。

松島

はい。

日向

いいですよ。

カードを地面に置き、距離を取る日向。

カードを拾い上げて、読み上げる松島。

松島

「晴れの日は必ず布団を干す」「毎日トイレを磨く」「毎日掃除機をかける」「玄関に花を飾る」「週5日は自炊する」「午前8時に洗濯する」「午後5時に洗濯する」「1日3時間は絵を描く」「毎日日記をつける」「絶対に怒らない」。

日向

そんなの参考になりますか？

松島

なります！ありがとうございました！

カードを置いて離れる三宅。

ゲームに没頭している倉橋に呼びかける松島。

松島

松島です。これからよろしくお願いします。

倉橋

…。

松島

あのお。

倉橋

あ、私ですか。

松島

あ、はい。

倉橋

タマトピア女王の倉橋環です。

松島

よろしければ、ルールを教えてくださいませんか。

倉橋

はい。

倉橋、カードを取り出して読み上げる。

倉橋

「好きな時に起きる」「好きな時に寝る」「好きな時に食べる」「好きな時に歌う」「好きな時にゲームする」「好きな時に風呂に入る」「好きな時に飲む」「一日一回、島の西側の岬から叫ぶ」「一日一回、5分間泣きわめく」「一日一回、自分を殴る」。

松島

…ありがとうございます。

倉橋から離れながら。

三宅

…ああいうのもいいんだね。

松島

ですね。

大神に話しかける松島。

松島

すみません。

大神

…。

松島

松島です。

大神

…スイートピアの大神薫です。

松島

よろしければ、ルールを

大神

ごめんなさい。

すぐに顔を背ける大神。

松島

…。

少し遠い所にいる永浦に話しかける松島。

松島 たくさんありますね、本。

永浦、本を読み続ける。

松島 なに読んでらっしゃるんですか？

永浦、耳から耳栓を取り出す。

永浦 はい？

松島 …いえ。

宮戸が戻ってくる。

宮戸 お待たせしました。だいたいよろしいですか？

三宅 はい。

宮戸 では戻りましょうか。

松島 はい。

広場から出て行くこうとする宮戸、三宅、松島。

松島、日向のテリトリーに踏み込む。

ユートピア侵入音。

三宅 トピアノ！

松島 トピアノトピアノトピアノトピアノトピアノトピアノ！

テリトリーを出ると、ようやく止む侵入音。
間。

松島 すみません！

日向 初めてです、踏み込まれたの。

松島 ホントすみません。

宮戸 行きましょう。

謝りながら、その場を去る松島たち。

気付けば、応接室。

松島と三宅がルールを書いている。

向かい側に小川が座っている。

三宅 書けました。(紙を渡す)
小川 ありがとうございます。

松島はまだ書いている。

三宅 どうよ。
松島 (手で隠す)
三宅 いずれ分かるんだからさ。
松島 ……よし！出来ました！

紙を渡す松島。

三宅 どれどれ。(覗く)
松島 いいですから。
小川 少々お待ちください。

小川、去る。

松島 三宅さんこそちゃんと10個に絞れたんですか。
三宅 なんとかね。
松島 ……ユートピアかあ。ガンダーラですよ。
三宅 ガンダーラ。
松島 どこかにあるユートピア？
三宅 松島くん、ユートピアの意味、知ってる？
松島 理想郷ですよ。
三宅 『どこにもない場所』
松島 ……
三宅 ギリシャ語で、そういう意味。
松島 ……どこにもない場所。
三宅 トマス・モアって人、知ってる？
松島 あ！聞いた事あります。
三宅 ホントかな。
松島 ホントです。偉い人ですよ。
三宅 そりゃ偉い人だよ。

松島 ……確か歴史の授業とかで。

三宅 そう。『ユートピア』っていう本を書いた人。その本からユートピアってい

う言葉が生まれたわけ。

松島 知らなかった。

三宅 習ったはずだけどね。あ、でも10離れてるんじゃないや教科書違つか。

松島 教科書しっかり見てないんで。

三宅 (笑う) だろうと思った。でね、そのユートピアはいわゆる楽園みたいな場所じゃなくて、国民が画一化した労働と暮らしを行っている国なんだ。

松島 画一化ですか。

三宅 同じ服を着て同じ時間だけ働いて同じ場所に集まってご飯を食べる生活を、みんながしてるわけ。

松島 どうしてそれがユートピアなんですか。

三宅 確かに今の感覚からするとそう思うけど、この本は当時のイギリスとかヨーロッパの人に対する批判として書かれたんだよね。権力が一極集中した世の中にむけて。

松島 アテツケで書かれたって事ですか。

三宅 簡単に言っちゃえばね。だからユートピアはもともと皮肉めいた言葉なんだよ。

松島 三宅さん、物知りですね。

三宅 歴史とか好きな方だから。それにユートピアに興味があったし。

松島 これに選ばれる前から？

三宅 まあ。

松島 僕やっていけるかなあ。

三宅 それは俺も同じだよ。

横山、小川、天草、宮戸が入ってくる。

横山 失礼いたします。お待たせいたしました。

カードを掲げる宮戸。

宮戸 こちらユートピアルールカードになります。

横山 三宅さん。前へどうぞ。

三宅が宮戸の前に出る。

カードを読み上げる宮戸。

宮戸 サイコウニイカシテルミヤケユキヒト。ピア国のユート。ピアルールを…

松島 ちよつといいですか。

宮戸 はい。

松島 …いえ。

宮戸 サイコウニイカシテルミヤケユキヒト。ピア国のユート。ピアルールを読み上

げます。一、「朝7時、起床してすぐに国王演説」一、「午前中、国防強化

のための軍事訓練」一、「昼食を取りながら各国の情報収集」一、「午後、

治安維持のためのメンタルトレーニング」一、「午後6時、環境保護活動」

一、「午後7時、夕食を取りながら各国の情報収集」一、「午後8時、妻

に電話かメール」一、「午後11時、就寝」一、「毎週土曜、国民休暇の日」

一、「毎週日曜、健全なる男子としての欲求を解消する日」。三宅行人さん、

以上のユート。ピアルールでよろしいですね。

三宅 はい。

宮戸 それでは、サイコウニイカシテルミヤケユキヒト。ピア国、よろしくお願

致します。

宮戸、カードを渡す。

三宅 よろしくお願ひします。

横山 松島さん。

松島 あ、はい。

松島、宮戸の前に出る。

宮戸 続きましてマツト。ピア国のユート。ピアルールを読み上げます。一、「温故知

新」一、「一日一善」一、「弱肉強食」、

あの。

はい。

四字…続けてください。

一、「喧嘩上等」、

は？

は？

いえ。

一、「健康第一」一、「世界平和」一、「おはよう」一、「ありがとう」一、「失礼します」一、「すみません」。

三宅 オアシス運動じゃん。

松島 思いつかなくて。

三宅 いいんですか、こういうの。

横山 ルール設定は本人の自由意志に任せる事になっています。ただし決めた以上は守る義務があります。

三宅 (小声で) こんなんどうやって守るの。

松島 ……どうにかして。

宮戸 松島潤さんは、以上のユートピアルールでよろしいですね。

松島 よろしいです。

宮戸 それではマツトピア国、よろしくお願い致します。

天草、カードを渡す。

松島 よろしくお願いします。

小川 現在、午前11時59分。正午より新しいユートピア国の誕生となります。

半年間、よろしくお願い致します。

素敵なユートピアになるよう、心よりお祈りしております。

横山

管理側、礼。

三宅 最後に握手しておこうか。

松島 そうですね。

三宅 お互い、鎌倉幕府。(手を差し出す)

松島 は？

宮戸 いい国つくろう。

松島 ……ああ。

三宅 悪かったよ。

松島と三宅、手を握り合う。

松島 ちょっと寂しい気がしますね。

三宅 松島くん、うっかりしないようにね。

松島 気をつけます！

三宅 心配だなあ。

松島 三宅さんの国には吸収されないようにしますね。難しそうだから。

小川 あと10秒です。9、8、7、6、

松島と三宅、徐々に距離を取って行く。

小川

5、4、3、2、1。新しい国が誕生しました。

花火の打ち上がる音。

その場にただ、立っている2人。

花火が止み、静寂。

松島

…なにか変わったんですかね。

三宅

変わったんだろ。

間。

三宅

じゃ。

松島

じゃ。

進む方向がかち合い、戸惑う2人。

松島

ごめんなさい。

三宅

こちらこそ。

そしてお互い真逆の方向に去る。

三宅が歩いている。

松島が歩いている。

三宅と松島、それぞれドアの前に立つ。

ドアを開ける。

部屋を見回す。

寝転がる松島。

座る三宅。

座ると同時に、髪の毛の長い同じ格好をした女たちが、三宅のテリトリー内を取り囲んでいく。

三宅

来ちゃったよ。

女1

そうだね。

三宅

ごめんな。

女2が現れる。

女1・2

いいよ、別に。

三宅

ちよっと後悔してる。

女3が現れる。

女1・2・3

そうなの。

三宅

ちよっとね。

女1・2・3

ふうん。

立ち上がり、部屋を出る三宅。

同じ髪型の女たちは、三宅を囲みながら付いて行く。

松島は寝転がったままだ。

三宅と女たちは歩いていく。

女1

そんなに好きだなんて知らなかった。

女2

私も。

女3

私も。

女1

顔もはっきり思い出せないくせに。

女2

それは近くに居すぎたからでしょ。

女1

どういう意味。

女2

四六時中近くに居すぎると、お互い顔の造りなんかどうでも良くなるんだよ。

女3

ああ、そういうもんかもね。

女1

だからって5年も付き合った女の顔を思い出せないってどうなの。

女2

ひどいよね。

女3

ひどいよね。

女1

ひどいよね。

女2

ひどいよね。

女3

ひどいよね。

反対側から倉橋が歩いてくる。

同時に女たちは去る。

立ち止まる2人。

三宅
どうも。

倉橋
さつき、花火。

三宅
はい。めでたく国王になりました。

倉橋
よろしくお願ひします。

三宅
よろしくお願ひします。

倉橋、三宅と距離を取りながらすれ違い、去っていく。

また三宅の周りを囲む、女たち。

松島が起き上がり、部屋を出て歩き出す。

女1
良かったの、聞かなくて。

三宅
聞きにくいでしょ、この距離じゃ。

女2
やっぱり距離って大事だよ。

女3
近づきたくても近づけない。

女1
そういうのに燃えるんだよね、女って。

女2
そういうのに運命感じちゃうんだよね、女って。

三宅
俺たちだってそうだっただろう。

女3
バカだねえ。

女1
顔が見える距離じゃないとダメなんだよ。

女2
遠距離なんて恋愛でもなんでもないよ。

女3
ただの我慢大会だよ。

三宅
だから捨てたのか。

女たちと去っていく三宅。

島の東側の砂浜。

野崎が1人、砂と戯れている。

天草が走ってくる。

一定の距離を保ったまま、見つめ合う2人。

天草
待った？

野崎
ううん。

天草
今日は色々大変でさ。

野崎
…ごめんね、忙しいのに。

天草
大丈夫だから、気にしないで。

野崎 …お菓子、作ったんだ。
天草 ホント？

野崎、箱を開けて見せる。

野崎 クッキー。
天草 美味しそうだね。
野崎 食べる？
天草 うん。

近づこうとする野崎。
距離を取る天草。

野崎 天草さん、建国者じゃないのに。
天草 だけど俺らは特例以外で入っちゃいけない規則だから。
野崎 そうだよね。

野崎、地面に箱を置いて離れる。
箱を取りに行く天草。

天草 ありがとう。

天草、クッキーを食べる。

天草 美味しい。
野崎 良かった！チョコのヤツも美味しいよ。
天草 ありがとう。

腕時計を見る天草。

野崎 時間だよね。
天草 そろそろ。
野崎 また明日、ここで。
天草 うん。じゃ。

天草、去る。

日向と伊吹が通りかかる。

日向 天草さんとなにしてたの。
野崎 別に。

日向 ダメだよ、ルール守んなきゃ。
野崎 ルールは守ってるよ。

伊吹 男はやめなよ。ロクな生き物じゃないんだから。
野崎 うっせえなーババア。

伊吹 男はバカだし厚かましいしくだらしないし気が小さいし最悪だよ。
野崎 最悪なのはてめえだよクソババア！

日向 松島さんってどこ行ったのかな。
伊吹 松島って新しいヤツ？

日向 うん。
伊吹 知らない。他の人なんてどうでもいいよ。

日向 そうだね。…そろそろ洗濯の時間だ。
伊吹 さっきの話だけどさ。

日向 ああ、合併の。
伊吹 私、本気だよ。

日向 伊吹さんには無理だって。服によって柔軟剤のタイミングとか違うし、命
伊吹 がけなんだからね。

日向 教えてよ、守るから。
伊吹 いやあ、無理だって。

日向 ちゃんと守るからさ。
野崎 見苦しい。

野崎、去る。

伊吹 どっちだよ。見苦しいの。

日向 気にすることないよ。あの人あいうのがルールなんだから。
伊吹 ありがとう。

日向 お互い、頑張ろうね。
伊吹 うん。

日向、去る。

途端に、伊吹の周りを男たちが数名囲い込む。

岩城 伊吹直子、最高！
永浦 伊吹直子、大好きだーっ！
宮戸 ブキトピア国、バンザイ！
天草 バンザイ！
宮戸 バンザイ！
天草 バンザイ！
永浦 バンザイ！

男たちにバンザイされながら歩いていく伊吹。
松島とばったり会う。

松島 こんにちは。

途端に、さっといなくなる男たち。

伊吹 …。

松島 いいお天気ですね。

走り去る伊吹。

去っていく伊吹を見送ると、また歩き出す松島。

女たちに囲まれながら、イタリアンレストランに辿り着く三宅。

女1 イタリアン大好き。
女2 ペペロンチーノ大好き。
女3 よく一緒に行ったよね、三丁目の角の小さな店。
女1 ペンネアラビアータ大好き。
女2 ここでも食べたんだろうなあきつと、とか思ってるんですよ。
女3 そういうセンチメンタル感じてるんですよ。
女1 つまらない男。
女2 ちっさい男。
女3 だっさい男。
女1 もっさい男。
女2 くっさい男。

レストランの中に入る三宅。
カランコロンカランと音。

同時にいなくなる女たち。

三宅 ……庶民的だな。

壁を一枚隔てた厨房に、シェフの久米が立っている。
沖野が座っている。

沖野 よう。

三宅 サイコウニイカシテルミヤケユキヒト。ピア国…略してサイケト。ピア国の三宅です。どうも。

沖野 よろしく。

手を差し出す沖野。

手を出そうとする三宅。

三宅 あ。(手を引っ込める)

沖野 なんつって。

三宅 ……ユート。ピア建国者の方ですか。

沖野 オート。ピア国。沖野新一。

三宅 ……。

沖野 まだ建国者だといんだけど。

三宅 まだ？

沖野 俺ね、多分もうすぐ失格。

三宅 どうしてですか。

西の岬の先端に、倉橋が立っている。

倉橋 嘘つき—————っ！

声に気付いて、岬に向かう松島。

三宅 ……なんだ、今の声。

沖野 倉橋さん。毎日叫ぶのがルールだからね。

三宅 ああ、自分を殴るなんていうのもありましたね。

沖野 注文したら。

三宅 あ。(メニューを見る) なんでもありませんね。

沖野 一流だからね。

三宅 鉄板ナポリタンください。

久米がボタンを押す。

ピンポーンと音がする。

三宅 正解？

沖野 違う、了解。

沖野から離れた席に座る三宅。

三宅 なに、やったんですか。

沖野 倉橋さんのユートピアに間違えて入っちゃってさ。で、息継ぎしちゃうんだけど、2日で逃げちゃった。

三宅 どうしてですか。

沖野 まあ色々。

三宅 …色々。

沖野 でも前の事もあるし困るだろうね、管理側としては。

三宅 前の事って失格になった…

沖野 米沢聡と千葉奈津子。

三宅 その2人、どこに行ったか知ってますか。

沖野 どこ行って帰ったんですよ。

三宅 帰ってませんよ。連絡が取れなくなっただんです。

沖野 そうなの？じゃ、2人が出来ちゃったからかな。

三宅 え？

沖野 ルール破ったらしいからね、俺と一緒に。

三宅 出来ちゃったって、男女の仲に？

沖野 そう、そういう仲になった途端にユートピアルール無視しちゃったもんだから、失格になったんだね、きつと。

三宅 …。

沖野 関係あるの。どっちかと。

三宅 まあ。

沖野 よく建国者になれたね。めっちゃめっちゃクジ運いいじゃん。

三宅 まあ。

沖野 …ま、いっか。

久米がボタンを押す。

ファンファールが流れる。

顔が見えないように気をつけながら、2人の料理のトレイをカウンターに出す久米。

沖野
出来た。

三宅
はや。

沖野
一流だからね。

カウンターにトレイを取りに行く沖野。

三宅も取りに行く。

沖野
いただきます。

ピンポーンの音。

三宅
…いただきます。

ピンポーンの音。

食べ始める2人。

三宅
…美味い。

野菜を持って入ってくる岩城。

岩城
久米さん、良かったらこれ使って…沖野さん！大丈夫なの？

沖野
まあね。

岩城
失格になっちゃうよ。

沖野
ま、仕方ないでしょ。

岩城
沖野さんいなくなったらめっちゃ寂しいじゃん。

沖野
岩城さんは頑張ってるよ。エコな国目指してさ。

岩城
頑張るよ、もちろん。

三宅
エコトピアですか。

岩城
エコトピア？

三宅
違いますか。イギリスのカレンバックが書いたユートピア小説なんですけど、それは知らないですね。いや僕ね、仕事は朝から晩までデスクワークだし、

三宅

昼は毎日コンビニ弁当かマック、夜は動くのがめんどくさいから出前か近所のファミレスっていう生活だったんですよ。

岩城

ええ。で、タバコはスパスパやるわ毎晩ビール焼酎はガバガバ飲むわ休みの日はパチンコ行くかゲームやるかだね。

三宅

そんな風には見えないですよね。

岩城

僕もこんなルール選ぶとは思わなかったですよ。

三宅

突然思い立ったんですか。

岩城

ルール決めてくださいって言われた時、突然。自分の生活と実際に望んでるものって案外違うんだなあって思いましたね。どっかで嫌になってたんでしようね。自分を変えたいと思ってたのかもしれない。

三宅

なるほど。

岩城

でね、この生活をやり始めてからもっとこうしたいああしたいっていうのが浮かぶようになって来ましたね。

三宅

狙いどおりですね。

岩城

そう思いました。そうか、今までは知らないうちにやる気なくしてたのかもしれないなって。

三宅

そうなれるといいんですが。

岩城

なれますよ。1人でいると色々な事考えますからね。

三宅

考えるの嫌になりませんか。

岩城

嫌な事を考えざるを得ないからいいんじゃないですか、この政策は。

三宅

考えざるを得ないから。

沖野

久米さん、今日のこれマジ美味い。

久米がボタンを押す。

『歓喜の歌』が流れる。

沖野

食べる？

岩城

俺自炊なの知ってんじゃない。

沖野

そうだった。

岩城

…じゃ。

沖野

じゃ。

岩城、去る。

岩城、戻ってくる。

岩城 来たーっ！来た来た来た来た！

沖野 なにが。

岩城 管理官。

沖野 久米さん。

ピンポーンの音。

沖野が厨房の方に隠れる。

横山と宮戸が来る。

横山 こんにちは。

三宅 こんにちは。

横山 ……。

三宅 (食べ続ける)

横山、沖野のトレイに気付く。

横山 誰の分ですか。

三宅 あ、これは…。

岩城を見る三宅。

岩城、首を振る。

三宅 もうすぐ松島くんが来るんで。

横山 ああ。

三宅 ……。

横山 失礼します。

横山と宮戸、去る。

岩城 ああーっ！めっちゃドキドキしたーめっちゃドキドキ！

沖野 (現れながら) いつも悪いね。

久米 ホントだよ。まったくとく。

三宅 しゃべった。

久米 これ、ひとりごとね。

三宅 は？

久米 俺、接触しちゃいけないから。

三宅 ああ。

岩城 ああっ！心臓飛び出るかと思った。ホントマジびっくり。

カランコロンカランの音。

横山 沖野さん。

入口に横山と宮戸が立っている。

横山 困りますよ。こういうの。

沖野 ……どうもすみません。

宮戸 行きましょう。

沖野 はい。

横山と宮戸に続き、レストランを出る沖野。

西の岬に着く松島。

松島 倉橋さん。

倉橋 あ、どうも。

松島 叫んでましたね、今。

倉橋 ルールですから。松島さんは。

松島、その場にカードを置いて離れる。

カードを拾い上げて見る倉橋。

倉橋 ……なんですか、これ。

松島 なんか思いつかなくて。倉橋さんのも変わってますよね。

倉橋 変わってます？

松島 だって「自分を殴る」って、あったでしょ。

倉橋 殴るとすつきりしますよ。

松島 ……

倉橋 ローテーションがあるんで、痛みを引きずらないようになってますし。月

曜日 曜日は右の頬。火曜日は左の頬、水曜日は、右の脛、木曜日は左の脛、金

曜日はみぞおち、土曜日はお尻、日曜日は頭。

松島 ……

倉橋 自分で殴るのも、慣れてくると手加減しなくなってきましたけどね。

倉橋、再びカードを置く。
松島、カードを拾い上げる。

松島 楽しいですか。

倉橋 楽しくないですよ。

松島 楽しくないんですか。

倉橋 楽しいだけじゃ理想の国にはならないでしょ。

松島 だから自分殴るんですか。

倉橋 私の場合はね。

松島 面白いですね。

倉橋 面白くないですよ。

松島 …でも必要なんですよ。

倉橋 自分を戒める規律は必要だと思ってますから。

松島 …なるほど。

倉橋 おかげでここに来てから私、ホントに穏やかになりました。

松島 …。

倉橋 1人っていいですよ。

松島 いいですか。

倉橋 はい。…じゃ。

倉橋、去る。

岬の先端に立つ松島。

松島 世界平和——っ！

大きな波の音。

松島の背後に、岬の女が立つ。

倉橋に瓜二つだ。

岬の女 ねえ。

松島 倉橋さん。

岬の女 誰それ。

松島 あれ、違いました？

岬の女 私だよ。

松島 誰でしたっけ。

岬の女 私。
松島 えっと…ごめんなさい。
岬の女 まあいいや。
松島 はい。
岬の女 なにしてんの。
松島 ルールを守ってました。
岬の女 今の守ってるうちに入るの。
松島 分かりませんが、なんとなく叫んでみようかなあって…。
岬の女 ふうん。
松島 …あれ！
岬の女 なに。
松島 ト。ピアノ！
岬の女 ト。ピアノ？
松島 …なんで？
岬の女 なにが？
松島 …いえ。
岬の女 なに考えてんの。
松島 今ですか。
岬の女 そう。
松島 ユート。ピアノってなんだろうなあって。
岬の女 ユート。ピアノ。
松島 全然思いつかなくて。
岬の女 難しいね、確かに。
松島 そうなんですよ。で、こんなルールになっちゃったんですけど。
岬の女 悪くないんじゃない？
松島 そうですか。
岬の女 オアシス運動、いいと思う。
松島 ホントですか！
岬の女 おはよ————っ！
松島 ありがとう——っ！
岬の女 失礼しま——っ！
松島 すみませ——っ！
岬の女 挨拶はしっかりしないとね。
松島 はい。
岬の女 どうして。
松島 え？

岬の女 どうして呼んだの？
松島 呼んだ…？
岬の女 まあいいや。
松島 …はい。
岬の女 分かるといいね。ユートピア。
松島 はい。
岬の女 じゃ。
松島 どこ行くんですか。
岬の女 どこにもない場所。

岬の女が去っていく。
波の音が高くなる…。
夜、管理事務所の応接室。
横山と沖野が向かい合わせに座っている。
横山の後ろには宮戸が立つ。

横山 どうして逃げたんですか。
沖野 逃げたかったからです。
横山 倉橋さんの国が嫌になったんですか。
沖野 嫌ですよ、あんな自分を殴る国。
横山 踏み込んでしまったのは沖野さんなんですから。
沖野 すみません。
横山 まだ続けるお気持ちはおありなんですね。
沖野 あります。
横山 倉橋さんは戻ってもらって構わないとおっしゃっています。
沖野 そう言うでしょうね。倉橋さんは。

2人が話している間、女たちに囲まれた三宅が歩いてくる。

三宅 失礼します。

女たちが去る。

三宅 8時になるので、妻に連絡を…。
宮戸 少々お待ちください。

宮戸がいったん去る。

沖野
どうも。

三宅
どうも。

小川が三宅の携帯を持って出てくる。

小川
お待たせしました。こちらへどうぞ。

小川について行く三宅。

横山
倉橋さんには充分に感謝してください。

沖野
了解ボス。

横山
では明日の集会から復帰するように段取りをつけておきます。

沖野
ありがたやありがたや。

横山
もう二度と、このような事がないようにお願いします。

沖野
…はい。

横山
今日はこの事務所にお泊りください。

宮戸
ご案内します。

沖野と宮戸、去る。

小川たち、別室に着く。

小川
こちらの部屋でお願いします。

三宅
はい。

小川、去る。

台の上に置かれた携帯を手に取る三宅。

宮戸と沖野、去る。

三宅、携帯を耳に当てる。

その瞬間、女たちが三宅を囲み、声を合わせる。

女たち
留守番電話、現在、保存メッセージは1件です。「もしもし、あたし。なん

か離れちゃった。さよなら」。留守番電話、現在…

三宅
もしもし…俺だよ俺。元気か。ああ、こっちは順調だよ。子どもたちはち

やんとやっってるか。思ったよりラクに生活出来そうだ。心配する事はない

よ。ありがとう。お前も俺がいなくて大変だと思うけど、よろしくな。また明日電話する。

女たち
三宅 「もしもし、あたし。なんか離れちゃった。さよなら」
じゃ。

電話を切る三宅。

同時に女たちは去っていく。

間。

ノックの音。

小川 よろしいですか。

三宅 はい。

戻る小川たち。

三宅 ありがとうございます。

小川 いえいえ、奥様はお元気でしたか。

三宅 …はい。

小川 ご協力、本当に感謝しております。

応接室に戻ってくる三宅。

小川 失礼します。

小川、去る。

1人になる三宅。

途端に、椅子に横山と宮戸、女3が向かい合わせに座る。

横山 どうしてルールを破ったんですか。

女3 好きになっちゃったんです。

横山 好きになっちゃったんですか。

女2 もうどうしようもなく好きになっちゃったんです。

横山 彼はいいんですか。

女4 あの人がつまらないんです。

横山 どうつままないんですか。

女2 あの人が、自分がないんです。

横山 自分がない。

女2・3・4 ドライブ行っても海行ってもどこ行ってもおんなじで。

横山 米沢さんは違うんですか。

女2・3・4 もう面白くなって面白くなって。

横山 だからルール破ったんですか。

女2・3・4 そうでーす。

横山 はい失格！

宮戸 スーパー三宅行人くん、没収！

小川が来る。

小川 あ、まだいらしたんですか。

横山と宮戸と女たち、去る。

三宅 失礼します。

事務所を出る三宅。

歩くたびに大きくなる波の音…。

女たちが三宅を取り囲む。

女1 ザブーン。

三宅 …。

女1・2 ザザブーン。

三宅 …。

女1・2・3 ザザザブーン。

三宅 …。

女1・2・3・4 ザザザザブーン。

三宅 …。

女1・2・3・4・5 ザザザザブーン。

西の岬に着く三宅。

松島が、あれからずっと先端に座っている。

波のように離れていく女たち。

三宅

松島くん。

松島 お久しぶりです。

三宅 まだ一日も経ってないけど。

松島 そうでしたっけ。

三宅 いつからいるの。

松島 結構ずっと。

三宅 そう。

松島 変わるんですかね。

三宅 さあ。

松島 変わらない気がするんですよね。

三宅 どうして。

松島 僕ね、今幸せなんですよ。

三宅 幸せなんだ。

松島 だってね、僕ずっと一人で暮らしてきたんです。

三宅 一人で？

松島 はい。だから今更一人になったところで変わると思えないんですよね。

三宅 そりゃ幸せだね。

松島 なんなんですかね、ユートピアって。

三宅 …。

松島 そのうち自分の主義とか主張とか、芽生えちゃうんですかね。

三宅 どうなんだろうね。

松島 三宅さんはどうですか。

三宅 やる気だからさ。俺。

松島 カッコいいですね。

三宅 カッコ悪いよ。物凄くカッコ悪い。

三宅、松島に近づく。

松島、後ずさりする。

三宅、なおも近づく。

ユートピア侵入音。

三宅 ト。ピアント。ピアント。ピアント。ピアン…

三宅、松島の頭を触ろうとするが、交わす松島。

三宅が離れて、侵入音が止む。

松島 いきなりなんですか。

天草 伊吹直子バンザーイ！
全員 バンザーイ！

伊吹が去っていく。
大神が1人で通り過ぎる。

大神 1人最高——っ！1人大好き——っ！満員電車大っ嫌い——っ！じ
じい鼻息うっとしいんだよハゲ！

岩城が通り過ぎる。
草を持った人々が岩城の周りを取り囲んでいる。

全員 エコエコエコエコ…
女たち エコエコ。
男たち アザラク。
女たち エコエコ。
男たち アザラシ。
女たち エコエコ。
男たち ノザラシ。
女たち エコエコ。
男たち ハブラシ。
岩城 自然を！
全員 守ろう！
岩城 不自然を！
全員 自然にしよう！エコエコエコエコエコ…

岩城が去っていく。
野崎が天草を抱えて通り過ぎて行く。

天草 もう溶けちゃいたい。でろんでろんに溶けちゃいたい。めろりんめろりん
に溶けちゃいたい。

野崎たちが去っていく。
永浦が本を読みながら通り過ぎる。
永浦の周りを本を持った人々が取り囲んでいる。
その中に本の形をした男がいる。

本の男 私は本の神だ。
全員 ははーっ！
本の男 本の神は、紙の本である。
全員 ははーっ！
本の男 したがって火に弱い！
全員 ははーっ！
本の男 火の元には十分気を付けるがいい！
全員 ははーっ！

永浦が去っていく。
翌日の朝。
松島の家で松島が起きる。
カードを見る松島。

松島 おはようございます！

静寂。

松島 世界平和！（拳を振り上げる）

静寂。

三宅の家で三宅が起きる。
同時にさらに数の増えた女たちと、知らない髪型の男が三宅を取り
囲む。

男1 米沢でーす。
三宅 …。
男1 奈津子と逃げた米沢でーす。
三宅 …。
男1 奈津子、おいで。
女たち はーい。
男1 奈津子、好きだよ。
女たち 大好き。
男1 結婚しような。

女たち

するするう。

カードを見る三宅。

三宅

サイケト。ピア国の国民諸君、おはよう！

女たちと男、三宅と距離を取るが、すぐに囲む。

三宅

素敵な朝を迎えたかな。これから我が国は、どんどん良い国になるはずで
す。

女たちと男、三宅と距離を取るが、すぐに囲む。

三宅

皆さん！といっても1人ですが、とにかく1人でこの国を盛り上げるべく
頑張っていきましょう

自分で拍手する三宅。

女たちと男、三宅と距離を取るが、すぐに囲む。

三宅

国防強化のための軍事訓練開始！

三宅、腹筋をやり始める。

三宅

1、2、3、4、5…

女たちと男、徐々に離れていく。

松島

弱肉強食！（拳を振り上げる）

静寂。

松島、部屋を出て歩いていく。

三宅、背筋をやっている。

三宅

…1498、1499、1500。

誰もいなくなっている。

三宅

よし。

三宅、部屋を出て歩いていく。
だが、すぐに女たちと男に囲まれる。
一方、畑を耕している岩城と遭遇する松島。

松島

おはようございます！

岩城

おはようございます！

松島

岩城さん、めちゃくちゃカッコいいですね。

岩城

あ、そう？

松島

一日一善！（拳を振り上げる）

岩城

…。

松島、元気に歩いていく。

そうして、三宅とぼったり会う松島。

離れていく女たちと男。

松島

…。

大きく迂回する2人。

松島

じゃ。

三宅

じゃ。

また女たちと共に去っていく三宅。

松島、並んで歩く倉橋と沖野に遭遇する。

倉橋

おはようございます。

沖野

沖野です。

松島

松島です。

倉橋

行きますよ。

沖野

ちよっと叫びに行つて来ます。

倉橋と沖野、歩いていく。

イタリアンレストランに入る松島。

カランコロンカランの音。

松島 モーニングセットください！

久米がボタンを押す。

ピンポンと鳴る。

男たちに囲まれた伊吹がレストランに来る。

宮戸 口元が好きだよ。

天草 笑い皺が好きだよ。

永浦 背中肉が好きだよ。

カランコロンカランの音。

男たち、いなくなる。

伊吹 …。

伊吹、紙をカウンターに置いて離れる。

紙を取る久米の手。

ピンポンと鳴る。

伊吹、少し離れた所に座る。

すぐにモーニングセットが出る。

西の岬で倉橋が叫ぶ。

倉橋 甲斐性なし————っ！

松島 あ。

倉橋、沖野に叫べと促す。

沖野 田代まさし————っ！

帰っていく倉橋と沖野。

食べ終える松島。

松島 美味しかったあ。

食べ終えた伊吹が帰ろうとする。

松島 伊吹さん。

伊吹、立ち止まる。

松島 伊吹さんのルールを見せて貰えませんか。

伊吹 ……。

松島 お願いします。

伊吹、カードを置いて遠ざかる。

松島、カードを見る。

松島

「男とは口を聞くな」「男に笑顔は見せるな」「男の悪口はいくら言っても
よし」「男を好きになるな」「優しい男は疑ってかかれ」「女友達を大切にし
ろ」「女らしさを男のために磨くな」「重い物を一人で持てるだけの体力を
身につける」「辛くても泣くな」「媚びる女になるな」。

伊吹、カードを置けと指差す。

松島

あ…はい。

松島、カードを置く。

伊吹、カードを持って走り去る。

レストランを出るとすぐに伊吹を囲む宮戸と天草。

宮戸 伊吹直子！

天草 愛してる！

宮戸 伊吹直子！

天草 愛してる！

宮戸 伊吹直子！

天草 愛してる！

走り去る伊吹と男たち。

松島

凄いルールだなあ…。

久米の声

失恋かねえ。

松島

びっくりした！

久米の声

もっと優しく包み込む料理、作ってやんなきゃな。これひとりごとね。

松島

え？

久米の声

俺、接触しちゃいけないから。

松島

ああ…。ごちそうさまでした。

ピンポーンと鳴る。

カランコロンカランと、レストランを出る松島。

歩いていく松島。

松島

喧嘩上等！（拳を振り上げる）

歩いていく松島。

松島

健康第一！（拳を振り上げる）

と言っている間に、ユートピア広場の集会。

建国者たち、好き勝手にいる。

日向は絵を描いている。

松島はなにもしていない。

倉橋と沖野が、くっついて座っている。

倉橋が自分の右頬を殴る。

沖野も自分の右頬を殴る。

突然、三宅が立ち上がり、岩城に走り寄る。

岩城

え、ちょっと。

三宅、岩城のテリトリーに入る。

ユートピア侵入音。

三宅

トピアノトピアノトピアノ…

逃げ回る岩城。

同時に逃げ回る他の建国者たち。

岩城、なんとか逃げ切る。

沖野 …どうしてですか。

倉橋 私は私の国が気に入っているからです。

沖野 嘘でしょ。

倉橋 ホントです。

沖野 嘘ですよ、だって。

倉橋 だってなんですか。

沖野 …いえ。

倉橋 私を疑ってるんですか。

沖野 いえ、全然。

倉橋 なんかおかしいですか。

沖野 おかしくないですよ。

倉橋 おかしいところがあつたら言ってください。

沖野 おかしくないですって。

倉橋に走り寄る三宅。

終了の鐘が鳴る。

宮戸 集会を終わります。

全員、いっせいに広場からいなくなる。

松島、三宅に声をかけようとする。

三宅 ト。ピアノ。ト。ピアノ…

追いかけてられて、走り去る松島。

1人になる三宅。

沢山の女たちが集まる。

女4 邪魔なんだね。

三宅 そういうわけじゃないよ。

女5・6 邪魔なんだね。

三宅 そんな事言ってないだろ。

女たち おーじゃまじゃまじゃまー。

女たちに囲まれながら三宅、去る。

東側の砂浜。

野崎がお菓子の箱を持って待っている。
天草が走ってくる。

天草　ごめんごめん。
野崎　ううん、全然。
天草　大変だったらしいね。今日。
野崎　ちよっとね。…はい。

お菓子の箱を空ける野崎。

野崎　今日はケーキ焼いてみた。
天草　凄い！
野崎　ちよっと平べったいんだけど…味は悪くないと思う。

野崎、箱を置いて離れる。
天草、箱を取り上げる。

天草　凄い！俺の名前入ってる。
野崎　…ちよっと頑張ってみた。
天草　凄いね。

天草、一口食べる。

天草　すんげえ美味い！
野崎　良かった！
天草　ありがとう。
野崎　ううん。
天草　そうだ。

天草、ポケットから指輪を取り出して置く。

天草　これ。
野崎　なに。

野崎、置いた地点に近づく。

野崎 あ！

野崎、指輪を拾い上げる。

野崎 綺麗。
つけてみてよ。

野崎、指輪をつけるが、入らない。

天草 入らない？
ちょっと待ってね。

野崎、色んな指で試すが、入らない。

天草 無理じゃなくていいよ。
野崎 大丈夫。もうちょっと…
天草 ごめんね、サイズ、分かんなかったから。
野崎 大丈夫…（無理やり入れようとする）。
天草 ホントごめん！
野崎 大丈夫大丈夫。

野崎、指輪を掲げる。

野崎 紐つけて、首からぶら下げるね！
天草 ごめん。
野崎 ありがとう！凄く嬉しい！

小川が走ってくる。

小川 こんな所にいたんだ。

慌てて距離を取る野崎。

天草 すみません。

天草に近寄る小川。

その様子を見ている野崎。

小川
天草
そろそろ戻る時間だから。
了解しました。

小川と天草、並んで去る。

野崎
…。

再び、強引に指輪をはめようとする野崎。
伊吹が来る。

伊吹
野崎
盛り上がってるね、なんか。
はあ？
伊吹
野崎
そういうの、なんていうか知ってる？
なに。
伊吹
盲目。
野崎
…はあ？なに言ってるの。

野崎、行こうとする。

伊吹
野崎
男と話さない人に言われたくないんですけど。
…。
野崎
あんたと私は全然違うからさ。
違うよ、でも今は同じ。
…。
伊吹
野崎
同じだけ距離取ってる。
…だからなに。
距離があるから楽しいだけなんだよ、今は。
伊吹さん、いくつだっけ。
34。
だからそういうひがみっぽい事言っちゃうわけだ。
…。
野崎
前から言おうと思ってたけど、あんたのルールみっともないよ。
…ルール決めた時は、これが一番だと思ってたんだもん。その時はこれが

野崎 ユートピアだったんだもん。
 私はその人が純粹に好きなの。
 伊吹 それ、不倫と一緒にだよ。
 野崎 不倫？
 伊吹 障害があるから燃え上がってるだけだよ。
 野崎 そんな汚いもんと一緒にしないでくれる？
 伊吹 違うよ。恋ってみんな汚いんだよ、ホントは。
 野崎 ……
 伊吹 綺麗な恋なんてないんだよ、全然。
 野崎 うるせえなババア！

野崎、走り去る。
 伊吹の周りを黒づくめの男たちが囲い込む。

男たち ごめんな、直子。
 伊吹 いいんだよ、別に。
 男たち ごめんな、これ以上の事はなにもしてやれないんだ。
 伊吹 いいんだよ、ありがとう。
 男たち ごめんな、直子と会えて本当に良かった。
 伊吹 私も良かったよ。
 男たち ごめんな、もうバレそうだから。
 伊吹 うん、分かってる。
 男たち ごめんな、電話とかメールとかは、もう。
 伊吹 しないよ、もう絶対しない。やだなあ安心してよ！ストーカーみたいな事も絶対しないから！
 男たち ごめんな…ごめんな…ごめんな…ごめんな…

男たちに囲まれながら去って行く伊吹。
 西の岬の先端。
 倉橋が泣きわめいている。
 そこに逃げてきた松島が走り込んでくる。

松島

…。

ひとしきり泣きわめくと立ち上がる倉橋。

倉橋

どうも。

松島

大丈夫ですか。

倉橋

『5分間泣きわめく』。ルールですから。

倉橋が去ろうとする。

松島

沖野さん、逃げちゃいましたね、また。

倉橋

逃げられるの慣れてますから。

松島

そうなんですか？

倉橋

ここに来る前も何度も逃げられてきました。

松島

…。

倉橋

私、誰かと一緒にいると好きなように生きられないんですよ。

松島

どうしてですか。

倉橋

嫌われたくないじゃないですか。

松島

好きなように生きると嫌われるんですか？

倉橋

もし彼が映画を観に行きたいのに、私が部屋でぐうたら寝てたいと思っ

松島

たらどうですか？

倉橋

どっちも好きにすればいいんじゃないですか。

松島

松島さん、他人と暮らした事ありますか？

倉橋

…ありません。

他人と6畳1間の狭いアパートでずっと暮らし続けるとね、感じるんですよ。私の好きなことが彼の好きなことを邪魔してる。だから私の好きなことを捨てよう、そうしよう。

松島

それ、楽しいですか。

倉橋

楽しいですよ。

松島

楽しいんですか。

倉橋

だけど1人はいいですよ。

松島

1人と2人だったらどっちが好きなんですか。

倉橋

好きってなんですか。

松島

え？

倉橋

最近分かんなくなるんです。

松島

分かんなくなる？

倉橋

好きな事するのを諦めすぎて、好きってなんなのかが分からなくなるんです。だから1人って、好きのリハビリなんですね、きっと。

松島

…。

倉橋

じゃ。

倉橋が去る。

岬の先端に立ち、海を見渡す松島。

松島
弱肉強食——っ！

大きくなる波の音。

岬の女が松島の後ろに現れる。

岬の女
だと思ったよね。さっき。

松島
うわ！

岬の女
弱肉強食——っ！

松島
…三宅さんはどうしちゃったのかなあと。

岬の女
それより自分でしょ。

松島
自分。

岬の女
なに。

松島
はい？

岬の女
なに。

松島
…さあ。

岬の女
…そう。

松島
はい。

岬の女
…そう。

松島
はい。

岬の女
分かんないんだ。

松島
うーん。

岬の女
…叫ぶ？

松島、思い切り叫ぶ。

松島
温故知新——っ！

岬の女
…どう？

松島
…分かんない。

岬の女
そう。

松島
なんだろう。

岬の女
初めてだね。

松島
初めて？

岬の女

なんとなく。

岬の女、去る。

松島

喧嘩上等——っ！

管理事務所の応接室。

横山と沖野が向かい合わせに座っている。

宮戸は横山の後ろに立っている。

横山

またですか。

沖野

すみません。

横山

倉橋さんは許しますと言ってくださっています。

沖野

そうですか。

横山

どうして逃げるんですか。

沖野

そこに道があるからです。

横山

沖野さん。

沖野

…分かんないんですよね。

横山

なにがですか。

沖野

2人っているのって人をダメにするんですかね。

横山

…。

沖野

頼られるのは嫌じゃないんですけどね。

女たちと男たちに囲まれた三宅が来る。

三宅

失礼します。

去っていく女たちと男たち。

三宅

妻に電話を。

宮戸

少々お待ちください。

宮戸、去る。

三宅

集会で…

横山

聞きました。ご心配なく。ルールが守られていれば大丈夫です。

三宅

…はい。

横山

「自分のユートピアを目指しての事ですから、悪い事ではありません。」

宮戸が携帯を持って戻ってくる。

宮戸

どうぞこちらへ。

宮戸についていく三宅。

宮戸

(歩きながら) やはり寂しいですか。

三宅

え？

宮戸

ご家族と離れて暮らすのは。

三宅

…寂しいですね。

宮戸

そのうえ誰とも接触しちゃいけないわけですからね。

三宅

宮戸さんだって大変じゃないですか。

宮戸

いえ、楽しいですよ。

三宅

立派ですね。

宮戸

僕ね、ルールって好きなんですよ。だからこの仕事を選んだのかもしれない。

三宅

い。

三宅

…。

宮戸

どうぞ。

去る宮戸。

携帯を耳に当てるのと同時に女たちが困い込む。

女たち

留守番電話、現在、保存メッセージは1件です。「もしもし、あたし。なんか離れちゃった。さよなら」。

三宅

もしもし、いない相手に話すのめんどくさいんだよ。妻とか子どもとか三宅行人とかめんどくさいんだよ。奈津子。お前今どこで、なにしてるんだ、

米沢って男と幸せにやってるのか。奈津子。奈津子。

女たち

「もしもし、あたし。なんか離れちゃった。さよなら」。

三宅

じゃ。

電話を切る三宅。

同時に女たちが去る。

ノックの音。

宮戸
三宅 よろしいですか。
ありがとうございます。

宮戸について行く三宅。
小川と天草が戻ってくる。

小川 ただいま戻りました。
横山 ご苦労様。建国者の様子は。
小川 今は皆さん、落ち着いているようです。
横山 経過報告書は。
小川 本日中に作成して本部にメールします。
横山 頼んだ。

横山、去る。
応接室に戻る三宅。

三宅 ありがとうございます。

去る三宅。
小川が天草に近づく。

小川 疲れたね。
天草 はい。
小川 今日はどうする？
天草 …お邪魔していいですか。
小川 いいよ。後で連絡ちようだい。
天草 …はい。

天草、去る。
宮戸がノートを取りに戻ってくる。

宮戸 お疲れ様です。
小川 お疲れ様。
宮戸 …。
小川 どうしたの。

宮戸 あーあ。やると思った。誰かが。

小川 三宅さんのこと？

宮戸 だって耐えられると思う？距離とって暮らすなんて。

小川 耐えられる。

宮戸 俺も耐えられるよ。俺ルール好きだから。

小川 バカにしてんの。これ。

宮戸 バカにしてないよ。楽しんでるの。

小川 ……

宮戸 だけどこの生活ってさあ、見てて憐れ。だってこんなことも（手をとる）

小川 こんなことも（抱きしめる）できないわけでしょ。

小川 ……

宮戸 俺やっぱ無理かも。

小川 ルールやぶってるよ。今。

宮戸 やぶってないでしょ。見つからなきゃ。

小川 ……お疲れ様。

小川、去る。

翌朝。

松島は寝ている。

三宅が起き上がると同時に沢山の女たちと沢山の男たちが囲む。

宴会のように盛り上がる全員。

歩き出す三宅。

女2 捨てるつもりい？

女3 捨てるつもりい？

女4 捨てるつもりだねえ。

女5 捨てるつもりなんだね！

女6 それもまたよし。

女2 悪いとは思わないよお。

女3 いいと思うよお。

女6 それでいいよお。

反対側から日向が歩いてくる。

囲んでいた者たちが離れていく。

日向 おはようございます。

三宅 おはようございます。

日向 昨日…。

三宅 ああ、突然すみませんでした。

日向 いえ…。

三宅 …。

日向 三宅さんのユートピアに入ってもいいですか。

三宅 え？

日向 ダメですか。

三宅 …いいですけど。

日向 ありがとうございます。

三宅 いいんですか。

日向 …前向きぶるの疲れました。

三宅 そうですか。

日向 自分で色々決めるの疲れました。

三宅 …そうですか。

日向、三宅のテリトリーにゆっくりと侵入する。
ユートピア侵入音。

日向 トピアノトピアノトピアノ…

日向、大きく息継ぎする。

日向 ラクになりました。

三宅 よろしくお願いします。

日向 よろしく願います。

三宅と日向、並んで歩き出す。
女たちが2人、走り寄る。

女1 捨てるんだ。

女3 捨てるんだね。

三宅 捨てるんじゃない。

女1 捨てるのと同じだよ。

女3 仕方ないけど。

日向 カード見せて頂けますか。

女たち、テリトリーから少し離れる。
三宅、立ち止まる。

三宅
はい。

日向にカードを渡す、三宅。

日向
やっぱりいいですね。
三宅
なにかですか。
日向
直接受け取るの。
三宅
…ああ。

カードを見る日向。

日向
『国王演説』は終わったんですか。
三宅
いえ、まだです。
日向
お願いします。
三宅
…はい。

日向、その場に座る。

テリトリーの外側から2人を見ている女たち。

三宅
サイケトピア国の国民の諸君、元気にしてたかな。
日向
はい！
三宅
一緒にユートピアをつくろうではありませんか。
日向
はい！
三宅
イエス！アイ！ドウ！
日向
イエス！アイ！ドウ！
三宅
イエス！ウイー！ドウ！
日向
イエス！ウイー！ドウ！
三宅
…モーニング行きますか。
日向
行きます。

三宅と日向、並んで去る。
女たち、遅れをとるまいとついて行く。

松島が起き上がる。
すぐに岬の女が来る。

岬の女 シャンとせんかい！
松島 はい！（シャンとする）
岬の女 挨拶！
松島 おはようございます！
岬の女 おはようございます！
松島 おはようございます！
岬の女 なんなんですか、一体。
松島 なんなの、逆に。
岬の女 分かりません。
松島 しっかりしろよ。
岬の女 しっかりしたいとは思ってるんですよ。
松島 どうしたいの。
岬の女 特にないんですけど。
松島 ダメじゃん。
岬の女 思い出してるんです。
松島 なにを。
岬の女 昔、言われた事。
松島 なんて。
岬の女 なんか凄い事言われたんですよ。
松島 誰に。
岬の女 誰に。
松島 さあ。
岬の女 さあさん。
松島 違いますよ。
岬の女 さあさんはどこにいるの。
松島 分かりませんよ。
岬の女 さあさんになに言われたの。
松島 だからさあさんなんて人知らないです。
岬の女 しっかりしろよ。
松島 余計なお世話です！

松島、部屋を出る。
岬の女がついてくる。

岬の女　ねーんねーんーころーりーよー
松島　　なんで子守唄歌うんですか。
岬の女　おこーろーりーよー
松島　　シャンとしろって言ったでしょ。
岬の女　ぼうやーはーよいーこーだーねんねしーなー
松島　　なんなんですか。
岬の女　うっとおしい？
松島　　そうは言いませんけど。
岬の女　うっとおしいんですよ。
松島　　そういうわけじゃないですって。

岩城と永浦が畑を耕している。

岩城　　こんにちは。

岬の女、去る。

岩城・永浦　　こんにちは。
松島　　あれ！？
岩城　　永浦さんが僕の国に入りたいって。
永浦　　昨日エコトピアという本を読みまして、目覚めました。
岩城　　本はいつでも読めるからって。
永浦　　国が変わろうとも本だけはなくならない、そう信じています。
岩城　　そっちもお願ひします。
永浦　　はい。

耕すのを再開する。

松島、歩き出す。

岬の女が再び来る。

松島　　またですか。
岬の女　ほらやっぱり。
松島　　そういうわけじゃないです。
岬の女　またまたー。
松島　　なんなんですか、もう。

松島と岬の女が去っていく。
東側の砂浜。

野崎と天草が向かい合っている。

野崎
見て見て、指輪。

指輪を首からぶらさげている。

天草
悪くないね。

野崎
うん。これはこれで可愛いし。

小川が野崎のすぐ前に現れる。

小川をよけて話そうとする野崎。

天草
凄く似合ってるよ。

天草、野崎の頭を撫でる真似をする。

野崎
…近づきたいなあ。

天草
…。

野崎
ごめん。

天草
俺もそう思うよ。

野崎
小川さんとかいつも近くにいて羨ましい。

小川が天草の目の前に現れる。

小川
今日、どうする？

天草
仕事だからさ。

小川
連絡ちょうだいね。

野崎
そうだよね。

天草
距離はあるけど、気持ちは一緒だろ。

野崎の目の前に伊吹が現れる。

伊吹
距離があるから楽しいだけなんだよ。

野崎 一緒だよ。いつも一緒。
天草 こんなに好きなの初めてかもしれない。
小川 今日、どうする？
野崎 ……私も。
伊吹 恋って汚いんだよ。
天草 これが終わったら、ここ、手つないで歩こう。
野崎 つなぐ。沢山つなぐ。
天草 そろそろ行かなきゃ。
小川 連絡ちようだいね。
野崎 うん、仕事頑張ってる。
天草 ありがとう！

天草、走り去るのと同時に小川も走り去る。

伊吹 辛いんですよ。
野崎 辛い。
伊吹 楽しいんですよ。
野崎 楽しい。
伊吹 ツラタノシイんですよ。
野崎 ツラタノシイ。

伊吹、走り去る。

野崎、1人で佇んでいる。
天草がゆっくり近づく。
天草、野崎を抱きしめる。
沢山の人々が2人の間に割って入る。
引き離される2人。
いつの間にか、ユートピア広場の集会。
建国者たちが集まっている。
並んで立つ三宅と日向を見ている全員。

伊吹 どうして。
日向 ごめんね、私、疲れちゃって。
伊吹 私と一緒になれば良かったじゃん！
日向 伊吹さんの国のルールは守れそうにないから。
伊吹 だけど…。

日向 伊吹さんもここに入れて貰えばいいんじゃないかな。

伊吹 …。

日向 ね。

伊吹 いい。

日向 …。

伊吹 私は、いい。

日向 そう。

集会開始の鐘が鳴る。

宮戸 それでは集会を始めます。

三宅 行きますよ。

日向 はい。

三宅たち、野崎を追いかける。

逃げ回る野崎。

野崎 やめろよ！マジぶっ殺すぞてめえ！

三宅たち、野崎のテリトリーに入る。

三宅・日向 ト。ピアノ。ト。ピアノ。ト。ピアノ…

野崎、なんとか逃げ切る。

三宅の前に突然、女1が現れる。

女1 忘れるんだね。

女1が去る。

沖野が倉橋を引っ張って、三宅たちに突入しようとする。

沖野・倉橋 ト。ピアノ。ト。ピアノ！

倉橋、強引に引っ張って三宅たちから離れる。

倉橋 ちょっと！

沖野 行きましょう！

倉橋 嫌だって言ってるでしょ！

沖野 じゃなんで2人っていると泣くんですか。

倉橋 ……

沖野 ……ごめんなさい。

倉橋 やっぱ私といると辛いですか。

沖野 辛いのは倉橋さんでしょ。

倉橋 いいんですよ。嘘つかなくても。

沖野 嘘じゃないですよ。

倉橋 大丈夫です、分かっていますから。

沖野 いやホントに嘘じゃなくて。

倉橋 2人でいるの嫌なんですよね。

沖野 2人が嫌なのは倉橋さんですよね。

泣くのは心を許してるからです。1人だと泣きたくても泣けないから。

ここに入りますか？

やめましょうよ。

松島さん。

倉橋 簡単に入っちゃダメです。

三宅の前に女2が現れる。

女2 簡単に忘れるんだね。(去る)

三宅 松島くんはそんなユートピアでいいの？

松島 はい。

三宅 なにがいいの。

女1 私のなにが良かったの。

松島 分かりません。

三宅 そんなんじゃないやダメでしょ。

三宅たち、松島を追いかける。

松島、逃げる。

三宅たち、大神のテリトリーに入る。

三宅・日向

ト。ピアノト。ピアノト。ピアノ…

三宅、大神の頭のバンドを取る。

大神
いや—————っ！

大神、その場に泣き崩れる。

宮戸
大神さん、ルールですから。

大神
私、1人がいいんです。

宮戸
ルールですから。

…。

大神
大神、三宅の国に入る。

大神
…よろしくお願いします。

日向
楽しいよ、きつと。

大神
…。

日向
誰かが傍にいた方が。

大神
…。

三宅の前に女3が現れる。

女3
忘れるんだ。

去る、女3。

三宅と日向と大神、岩城たちに狙いを定める。

草を武器にして逃げ切る岩城たち。

野崎を見る三宅たち。

野崎
殺すぞ。

三宅たち、野崎のテリトリーに入る。

三宅たち
ト。ピアント。ピアント。ピアン…

野崎、必死に防御する。

三宅、野崎のバンドを取る。

喜び合う三宅と日向。

野崎、三宅の国に入る。
女4と男1が現れる。

女4
男1
いつからそんな野蠻な人になったの。
だから言ったろう。あんなヤツダメだって。

三宅たち、倉橋たちを追いかける。
沖野、倉橋の頭を三宅に差し出す。
三宅、倉橋の頭のバンドを取る。

倉橋

…。

沖野
この方がいいと思いますよ。

倉橋
どうして。

沖野
2人は良くない。

倉橋
運命だと思ったんです。

沖野
運命じゃないですよ、間違えたんです。

倉橋
間違えたのが運命でしょ。

沖野
違いますよ。

倉橋
捨てないで。

沖野
捨てるもなにも、まず拾ってませんか。

…。

沖野
大勢で頑張りましょう。

三宅たち、伊吹を追いかける。

伊吹、すばしっこく逃げ回る。

伊吹を諦め、松島を追いかける三宅たち。

松島、逃げ回る。

横山と小川、天草が来る。

横山
皆さん、お疲れ様です。

横山たち、礼をする。
皆もつられて礼をする。

横山
松島
申し訳ありませんが、一時中断致します。
どうしてですか？

西山晴彦さん。

三宅 …。

横山 お分かりですね。

三宅 …はい。

松島 どうなるんですか。

横山 もちろん、失格になります。

松島 …。

三宅 ご迷惑をおかけしました。

横山 行きましょうか。

三宅 …はい。

日向 私たちはどうなるんですか。

小川 元のご自分の国にお戻りください。

野崎 良かったです。

大神 ありがとうございます。

日向 自分の国には戻りたくありません。

小川 三宅さんの国に関連する事は全て無効になりますから。

倉橋 ここは。

小川 そこは、三宅さんより前に起こったわけですから。

倉橋 はい。

三宅 すみませんでした。

日向 短い間でしたが、楽しかったです。

日向が長い髪を被り、女になる。

女 長い間だったけど、楽しかったのかな。

三宅 こちらこそ。

横山 行きましょうか。

三宅 はい。

横山と三宅、去る。

しばらく沈黙。

日向と野崎、大神、また不器用に、距離を取り始める。

ちようど、集会終わりの鐘が鳴る。

小川 集会を終わります。

1人、また1人、と去って行く。
日向が去ろうとする。

日向さん。

日向 話したいんですよ。男の人と。

日向 ……

日向 だから私の国に入りたいんですよ。

日向 ……うん。

日向 でも私は嫌なの。

日向 どうして。

日向 人の面倒見たくないから。

日向 ……面倒見て貰わなくてもいいよ。全然。

日向 見る事になるんだよ。絶対。

日向 どうして。

日向 近くにいたら分かっちゃうんだもん。

日向 ……なにが。

日向 あ、辛そうとか負のオーラ出してるとか。

日向 でも、そういうの共有するのが友達っていうか。

日向 私、友達じゃなくていいの。

日向 ……

日向 友達って便利な言葉だけとき、女同士って結局どっか優劣で判断しちゃうから。

日向 寂しくないの？

日向 寂しくないよ。時々疲れるだけ。

日向 ……

日向 ま、もうちょっと頑張ってみるかな。

日向 ……

日向 お互い、頑張ろうね。

日向 ……

日向、去る。

日向 伊吹のまわりを男たちが囲む。

宮戸 あの女よりはマシだから大丈夫。

岩城 あの女よりは人間曲がってないから大丈夫。

沖野 あの女よりは女らしいから大丈夫。

久米 あの子よりは男性経験ありそうだから大丈夫。
永浦 たくましい女ランキング第1位！
宮戸 ターミネーターに襲われたら守ってくれそうな女ランキング第1位！
天草 自立した女ランキング第1位！

伊吹、走り去るのと同時に男たちも走り去る。
横山と三宅が、海岸沿いを歩いている。

横山 千葉奈津子さんとか関係があたりだったんですね。

三宅 はい。

横山 そうでしたか。

三宅 はい。

横山 ……

三宅 あいつ、どこに行ったんでしようか。

横山 失格になってからの事は把握しておりませんね。

三宅 ……

横山 船が港に30分後に到着します。

三宅 ……はい。

松島が追いかけてくる。

松島 三宅さん。

横山たち、立ち止まる。

松島 お元気で。

三宅 松島くんも。

松島 はい。

三宅 ユートピア、頑張つて。

松島 はい。

横山たち、歩いていく。
岬の女が来る。

岬の女

寂しい？

松島 寂しくはないです。

岬の女 寂しいと思った事ないの。
松島 ないですよ。
岬の女 幸せなの。
松島 幸せです。
岬の女 幸せな人だね。
松島 幸せな人です。
…。
松島 …でも、1回だけ。
岬の女 1回だけ？
松島 思った事あるの思い出したんです。ついさっき。
岬の女 いつ。
松島 さあさんが死んだ日。
岬の女 さあさんって誰。
松島 違う、さ、じゃなくて、か、でした。
岬の女 …かあさん。
松島 そう、あなたが死んだ日。
岬の女 …。
松島 あなたがいきなり死んだ日。
岬の女 ああ、思い出したんだ。
松島 「辛い事があつたら広いところで思いっきり叫びなさい」。
岬の女 ああ、思い出したんだ。
松島 叫ぶとすかっとするよ。
岬の女 ああ、思い出したんだ。
松島 あなたが死んでから僕、寂しいの忘れてました。
岬の女 そう。
松島 忘れようとしてました。
岬の女 そう。
松島 温故知新——っ！
岬の女 弱肉強食——っ！
松島 おはよ——っ！
岬の女 ありがとう——っ！
松島 失礼しま——す！
岬の女 すみませ——ん！
松島 どこにもない場所——っ！
岬の女 どこかある場所——っ！
松島 こういう事かなって。

岬の女
松島
岬の女
松島

どういう事。
毎日がユートピア。
じゃ贅沢な話だ。
贅沢な話ですよ。

海を見つめる2人。

穏やかにリズムを刻んでいる波の音。
島の港。

三宅は、女たちと向き合っている。

女たちが手を振りながら、徐々に距離を取っていく。
海を見つめる三宅。

女たちは、客席の海に消えていく。

ユートピア侵入音が鳴り響く。

波は、とめどなく打ち寄せている…。

(完)